



自分に適した進路を考えましょう

「受験生だから受験勉強をしなければいけない。」これは、3年生にとって当たり前に見えることです。しかし、受験勉強に関しては、目標のあるなしで実際の行動に違いが生じます。これまで同様、学校での学習内容に加えて、1, 2年生の復習をしていくのですから、漠然とした目標では、不安とあせりで何も手につかない事態になりかねません。これからの受験生生活を有意義に過ごすためにも、明確な目標を早めに設定することが大切です。ただし、一度決めた目標が途中で変わることもありますので、進路選択への興味関心を持ちながら、継続できる受験に向けた対策をするようにお願いします。

①「公立高校でないとダメですか。」

これは、公立と私立の授業料に大きな開きがあった頃は、教育費についての保護者の思いがありました。しかし、令和2年4月から、「高校授業料実質無償化」がスタートしましたので、年収の額により、公立、私立の授業料の差がなくなっています。

②「普通科か実業系か。」

普通高校、商業高校、工業高校、農業高校、が基本であった時代は、普通科は、卒業後大学等へ進むイメージがあり、実業系の高校は、卒業後は専門知識を生かして就職するイメージがありました。今は、さらに専門性を磨くために大学への進学もありますし、普通科であれ実業系であれ、高校卒業後の選択の幅は大きく広がっているとと言えます。

③「興味関心を生かす。」

今、興味があることを将来につなげていきたいと思うなら、専門分野が学べる実業高校を選ぶのは、夢の実現への近道かもしれません。資格免許の取得に高校が力を入れているのが実業高校の強みです。就職するにあたっては、専門的な資格を持っていることは少なからず有利に働くと考えられます。普通科での学びは、教養教科をさらに学び、自分の目指す将来を思い描いて、進路を選択していくことになります。

④「自宅からの通学距離や交通の利便性。」

自宅から通う場合、公共交通機関へのアクセス等の利便性は結構気になるポイントです。通学に要する時間や距離が長く、自転車通学しか方法がない場合は、相当の覚悟が必要になるでしょう。合格してから考えるのではなく、受験校選択の段階から条件に加えておくべきだと思います。

⑤「なじみのある高校だから。」

その高校に、兄、姉が在学している、家族に卒業生がいる、といった環境があれば、自然と高校の校風や教育現場の様子がわかります。当然、他の高校に比べて情報量は多くなりますから、選択条件の上位に位置する可能性があります。

⑥「希望の高校に合格できるかどうか。」

どうしても、考えてしまう条件だと思いますが、絶対行きたい高校であれば、その思いを活力にして受験勉強に励むことができるのではないのでしょうか。

挑戦する権利はみなさん全員にあります。その気持ちがあれば、強力な目標となり、目の前の学習から逃げることなく、自覚をもって中学3年生の生活を過ごすことができるのではないのでしょうか。進路選択には、自分の意志と家庭の協力が必要です。日常の会話を大切にしましょう。

